

大分医療センター
広報誌

vol. **33**
2026年

あいしん 大分

定年退職のご挨拶	2
新任のご挨拶	
院長	5
副院長	6
統括診療部長	7
臨床研究部長	7
連携医療機関のご紹介	
医療法人 淵野会 淵野病院	8
防災訓練	9
人事異動	10
外来診察医担当表	12



(撮影：伊藤恭子)



院長

奈須伸吉

医師四十年、
そのうち国立大分病院・
大分医療センターでの二十八年間
縁、自信、我慢、感謝！

2026年3月末で大分医療センター院長を退任いたしました。

私は若い頃は自信がなく消極的な半人前の医師でしたが、縁あって当院に着任し一所で長く経験を積めたので徐々に自信がつき、医師として生きるすべと自分の居場所を見つけて、皆様に支えられながら最後まで当院の常勤医師として勤務することができました。病院幹部の間は丁度激動期に当たり、我慢に徹することが多かったですが、コロナ禍を乗り越えて病院はだいぶ落ち着き、無事退任の日を迎えることが出来ました。地域住民の皆様と連携医療機関の皆様には心から感謝していますし、特にOBを含む職員の皆様方は私に温かく接し、一人前に育てていただきました。色々な事が有りましたが、本当に幸せな28年間だったと自分では納得しておりそれだけで十分です。

私は1986年に大分医科大学を卒業し医師40年目になりますが、そのうち28年間は大分医療センター（旧国立大分病院）に勤務しました。初めて当院に着任したのが1993年で2年間泌尿器科医師として勤務し、丁度良いサイズで割と風通しの良い当院が自分に合っていると感じました。その後2000年には幸運にも泌尿器科医長（のち部長）として当院に戻れ、自身初めての診療科長として何事も自ら考え自ら決めて自ら行う立場になりました。しかし当初は泌尿器科の入院患者数が激減して苦労しました。そこで、当時は連携室が無かったため一人で病診連携訪問を行いようやく軌道に乗せることができましたが、最初の7年間は戦力不足（泌尿器科医師2人体制）であったため半端なく忙しく、現場スタッフから随分助けられました。

私が医師になってから10年余りの間に、泌尿器科では尿路内視鏡手術が進歩し腹腔鏡手術が始まりました。前任部長の溝口裕昭先生は日本の泌尿器腹腔鏡手術のパイオニアの一人で、当時の国立大分病院泌尿器科は最先端の手術を行っていました。後任の私も泌尿器科手術の劇変期（ラパロ創成記）に第一線で働くことが出来たのでとても幸運でしたし、そういう時期だったから自分で色々工夫して手術に取り組み、とてもやりがいがありました。2002年には泌尿器腹腔鏡手術技術認定制度が始まり、私は初年度に認定され、技術認定委員会の審査員にも選ばれて15年間務めました。審査期間

は12月から2月なので年末年始休みはまともに取れませんが、全国各地の手術手技や標準術式をすべて当院の手術に生かすことができました。

2006年からは、当時最も難易度の高い腹腔鏡下前立腺全摘除術に取り組みました。途中、慈恵医科大学青戸病院事件が起こり、全国の多くの病院がこの手術から撤退しましたが、当科は麻酔科と手術室の皆様スタッフと協力して12年間この手術を行えました。戦力が充実していたわけではありませんでしたが、一時は岡山県以西で最多手術件数となり、少しは地域貢献が出来たのではないかと考えています。しかし、やがて私が幹部職員になり、ロボット手術も始まって、腹腔鏡下前立腺全摘除術の時代は幕を下ろしました。

8年前に住野先生が跡継ぎで着任してくれた時は本当に夢のようでしたが、それ以前の私の部下は計17名で、皆様本当によく頑張ってくれました。医師の働き方改革が無い時代でしたし、紹介・急患は全て受け入れる方針にしていたので、地域から当科が信頼されて紹介が急増したので、さぞ部下の皆様は大変だっただろうと思います。しかし、当科で働いた医師は皆、今では立派な泌尿器科医になっているのでとても喜ばしく思っています。ただ唯一悲しくて残念な事は、当院に在籍した中野大作先生が他院に異動後数年で早世されたことです。しばらくは思い出す度に涙が出ました。

私は元々、最後まで臨床現場に居るつもりでしたので、病院幹部になった事は予想外でした。病院管理の知識は余り持っていませんでしたが、2014年に統括診療部長、2018年には副院長に任命されました。副院長の役割は医療安全室長と病診連携室長の業務が主でしたが、当時はそれ以外の役割もとても多い時期でした。医療安全は同係長に一から教わり徐々に慣れたので多くの事案に対応できましたし、連携室看護師やMSWと共に病診連携訪問を積極的に行うことで医師会、開業医と顔の見える良い関係を作れたと思っています。その他にも多くの職員から知恵を借りたので、自分の管理業務の経験不足を補うことができました。これもお世話になった病院への恩返しだと自分に言い聞かせながら、病院管理業務は自分流に泥臭く精一杯やったつもりです。

職員の皆様の頑張りがあったから、大分医療センターはずいぶん良くなったなと実感してきた頃の2020年春に突然、最初のCOVID-19院内クラスターが起きました。その後はただただ忙しく、落ち込んでいる職員を励ましたりしながら、COVID-19でバラバラに分断した病院内・外を職員皆で再び繋ぎ合わせてゆきました。その当時、当院に対する誹謗中傷は本当に酷かったですが、自分の人生勉強にはなりました。

そして2021年から5年間院長を務めました。実は、大混乱期に病院を立て直す確固たる自信は無かったので就任することを随分迷ったのですが、投げ出すわけには行かないので覚悟を決めて引き受けました。院長として大したことは出来ませんでした。最後まで逃げなかったつもりです。副院長、院長の9年間は一言でいえば「我慢」になりますが、少々なことが有っても職員の前では平静を保つように努めました。幸い私は、普通よりも少しだけ我慢強く、うまく気分転換も出来る方だったので、本当につらいと思ったことは有りませんでした。そして将来に対する楽観を持ちながら、淡々と役割をこなしてきたつもりです。定年を1年延ばして66歳の今まで常勤職員で働かせていただいたことは、若い頃には全く想像できなかった事なのでとても感謝しています。

現在も職員には大変恵まれており、おかげさまで病院経営はある程度持ち直し上向きになっています。微力な私でも、一定の役割を果たせたかなと少しほっとしています。

私は、管理職や幹部職員も病院の一つの役割であると思います。大分医療センターは新しい体制に変わりますが、管理職と幹部職員は常に謙虚に振舞い職員を信じて任せ、職員がそれに答えることが出来れば更に良い病院になると思います。

4月からは、月水金は当院の非常勤医師（シニアドクター）として臨床現場で働かせていただき、引き続き県東部の地域医療に少しでも役立ちたいと考えています。一方では、今までよりは自分の時間が持てるので色々な趣味を追及してゆきたいと思っています。

これからも大分医療センターをどうぞよろしくお願ひいたします。皆様本当にお世話になり有難うございました。

定年退職のご挨拶

看護師長

石川 奈保美

このたび、34年間勤務いたしました大分医療センターを定年退職することとなりました。長きにわたり、多くの患者さま、ご家族の皆さま、そして職員の皆さまに支えていただき、心より感謝申し上げます。

振り返りますと、看護師として患者さま一人ひとりに寄り添うことを大切にしながら、多くの出会いと学びに恵まれた34年間でした。時代の変化とともに医療や看護のありかたも変わりましたが、その中で仲間と支え合いながら勤務できたことは、私にとってかけがえのない財産です。

在職中にいただいた温かいご指導、ご支援に深く感謝するとともに、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

34年間、本当にありがとうございました。



看護師

清水 和子

このたび定年になり看護師としての歩みにひとつの節目を迎えることとなりました。妊娠、育児などで一時家庭にいましたが、途中入職という形で大分医療センターにご縁を頂きました。当初は慣れない環境に戸惑い、ご迷惑をおかけしましたが、先生方やスタッフの皆様にご温かく支えていただき今日まで勤めることができました。厚く御礼申し上げます。

日進月歩の医療の中で求められる看護の質も変化し多種の役割を求められてきました。特に新型コロナウイルス流行の際はわからない事だらけで、日々対応も変わり、TVでの報道等もあって日々不安も大きくなっていきました。院長先生はじめスタッフの皆さんの励まし、支えがなければ乗り越えられなかったと思います。

今後は再雇用という形で引き続き勤務させていただけることになりました。これまでの経験を生かし微力ながら大分医療センターのお役に立てるよう努めてまいります。

これまで支えてくださった皆様にご心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健康と大分医療センターのさらなる発展をお祈り致します。

本当にありがとうございました。

新任のご挨拶

新任のご挨拶

院長
梶 島 章



2026年4月より大分医療センターの院長に就任しました、梶島 章です。出身は、大蛇山まつりが有名な福岡県大牟田市です。近年、明治以降の石炭産業遺構が世界文化遺産に登録されました。1994年に九州大学を卒業し、九州大学第二外科（現 消化器総合外科）に入局しました。専門は消化器外科です。様々な関連病院で研鑽を積む中で、2006～2008年は大分赤十字病院に、2008年～2010年は大分県立病院にと大分の地で診療をさせていただきました。縁あって、2017年より再び大分の当院に赴任いたしました。今回の赴任は10年目になりました。

2021年4月に奈須前院長が院長に就任されると共に、統括診療部長を拝命し、当院幹部職員の一員となりました。統括診療部長を3年間務めた後、副院長を2年間務めました。新型コロナパンデミック・2度の病院クラスター・ウィズコロナを目指した診療の継続・コロナ後の患者減少と物価上昇による経営収支の悪化・経営改善への取り組みと、激動の5年間でした。それまでの外科臨床中心の日々が一転しました。手術から遠ざからねばならない日々戸惑いを感じることもありました。しかし、そのような中で前院長は、「粛々と病院運営に取り組まれてこられました。並大抵なことではなかったと感じます。少しずつではありますが、病院運営も上向いてきています。このような状況で院長業務を引き継ぎ、身の引き締まる思いです。

院長就任にあたり2026年度の病院目標を立てました。「地域を支え、地域から必要とされる病院であり続ける。」そのために、「お互いを理解し、共に協力して、よりよい明日のための一歩を始める。」としました。当院の基本理念として、「愛の心・手でやめる人々に寄りそう医療」があります。その理念

を少し具体化しました。「地域を支え、地域から必要とされる病院であり続ける。」は、中長期的な目標と考えています。近年の医療の進歩・医師の偏在化・少子高齢化等の状況の中で、病院もブランディング・専門性・地域性が求められています。地域の人々のニーズを読み取り、残すべきは残し、変えるべきは変えていく、そのことを続けていく柔軟性が必要と考えます。「お互いを理解し、共に協力して、よりよい明日のための一歩を始める。」は比較的短期的な目標です。お互いとは、当院スタッフ同士だけでなく、当院スタッフと関連医療機関のスタッフの方々・スタッフと患者さん・患者さんご家族・患者さん同士などいろいろな人々のつながりを意味します。また、よりよい明日は、健康だけでなく、よりよい病診連携・病院経営・家庭環境・地域環境と広い意味を含みます。そして、一年一年、少しでもいいから改善・成長する（ことを思い続ける）ことを目標としました。

今後、当院ではCT・リニアックの入れ替え、そして、電子カルテ更新と大きな変革を迎え、スキルアップが期待されます。一方、医師を含めたスタッフの減少による診療制限の課題もあります。

また、2026年度の診療報酬改定では急性期病院入院基本料の新設がなされ、急性期病院としての当院の立ち位置も見直しが必要となります。前途は決して明るいことばかりではありません。混乱する時期もあろうかと存じます。ただ、どんな時でも「地域のために」「共に」の気持ちを忘れずに、医療を継続していきたいと思えます。皆様には今度とも当院を頼っていただき、時には御支援・御指導もいただきたいと存じます。何卒、よろしく願いいたします。

副院長就任挨拶

副院長
有川 雅也



このたび、副院長を拝命いたしました。身に余る重責であり、その責任の大きさに、あらためて身の引き締まる思いです。私は循環器内科医として32年、その大半である21年を当院で勤めさせていただきました。その間に培った経験を活かし、今後は副院長として、当院の発展と地域医療への貢献に一層努めてまいります。

今日、病院を取り巻く環境は大きく変化しております。医療の質と安全を確保しつつ、持続可能な医療提供体制を築き、地域から信頼される病院であり続けることが、これまで以上に求められています。とりわけ、令和8年度診療報酬改定では、物価・賃金上昇や人手不足への対応に加え、医療安全、医療の質、医療DX、地域連携の推進といった方向性が示されております。

そのような中で、私が大切にしたいのは、公正さ (fairness, justice) を基盤とした病院づくりです。平等 (equality) とは、すべての人に一律に同じ対応を行うことです。公平 (equity) とは、それぞれの立場、役割、事情の違いを踏まえ、負担や機会の均衡を図ることです。そして公正とは、その判断の基準と過程が明確であり、誰に対しても

誠実で、説明責任を果たし得ることであると考えております。

病院には、多くの職種がそれぞれの専門性と責任をもって従事しております。役割も負担も一律ではない以上、単なる平等のみでは、かえって現場に不均衡を生むことがあります。また、公平を重視して事情に応じた配慮を行うとしても、その基準が曖昧であれば、十分な納得と信頼は得られません。だからこそ、平等を尊重し、公平に配慮しつつ、最終的には公正であることを大切にしたいと考えております。

今後は、現場の声に真摯に耳を傾け、丁寧な対話を重ねながら、職員一人ひとりが安心して力を発揮できる環境づくりに努めてまいります。また、令和8年度診療報酬改定の趣旨も踏まえ、医療安全の向上、質の高い医療の提供、医療DXの推進、地域の先生方との連携強化にも取り組んでまいります。

微力ではございますが、副院長として公正を重んじながら責務を果たし、当院の発展と地域医療への貢献のため尽力してまいります。今後とも、ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

統括診療部長 就任挨拶

統括診療部長

山下 勉



2026年4月より統括診療部長を拝命することになりました、消化器内科の山下勉です。

私は1998年に医師3年目の1年間、レジデントとして当院の消化器内科に勤務しておりました。当時のレジデントは、日雇いの不安定な身分でしたが、今のよう急患は多くなく、室医師の下で将来自分の専門分野となる肝疾患をじっくり学ぶことができました。

その後、いくつかの病院で研修し、消化器内科の中でも肝疾患を専門に診療をすることとなりました。

そして、2010年から再び当院で勤務することとなりましたが、以前勤務していた頃よりも急患が多く、非常に活気のある病院になっていました。

福地部長の下で大学の同級生の新関医師とともに消化器内科医長として勤務が始まりました。

福地部長は、どんなにがんばってもこの人には敵

わないと思える素晴らしい部長でした。その次に部長になった新関医師は、歴代の消化器内科部長の中で最も幅広い知識を持った、最も部長らしい部長だったと私は思っています。

その後を継いで、2018年に私は消化器内科部長となりました。何人もの優秀な消化器内科スタッフ、看護師、医師事務、その他のパラメディカルの方々の力を借りて、ただひたすら日々の診療をこなしていく毎日、そして気がついたら、統括診療部長という役職に就くことになっていました。

私自身としてはそのような感覚です。

今回いただいた名刺の裏に、統括診療部長の英語名として、General Managerと書かれてありました。これまでは自分の所属する消化器内科のことだけを考えていれば良かったのですが、これからは病院全体のマネジメントを求められてるのだと理解しました。

私には荷が重く感じますが、これまでどおり周りのスタッフの方々の力を借りて、院長・副院長を支えながらよりよい病院にしていければと考えています。

今後も変わらぬご指導のほど、どうかよろしく御願ひ致します。

臨床研究部長 就任挨拶

臨床研究部長

住野 泰弘



この度、臨床研究部長を拝命いたしました住野泰弘です。

私は2018年に泌尿器科医として当院に赴任いたしました。昨年度まで院長を務められた奈須伸吉先生の下で、泌尿器科の診療はもちろんのこと、保険診療や病院経営といった、これまでとは異なる多角的な視点からのご指導を仰いで参りました。今後も引き続き、病院運営や近隣の医療機関との連携を強化し、いかにして地域医療を守り、皆様の健康を支えるべく、全力を尽くしてまいります。

また、持続可能な地域医療のためには、次代を担う若手の医療従事者を育成・確保することが極めて重要です。昨今、医療の現場は厳しい環境にあると言われてますが、大切なのは、若い方々が「自分もこうなりたい」と思えるようなロールモデルを、私たち職員一人ひとりが示していくことではないでしょうか。

それは単に知識や技術を追求するだけでなく、一人の人間としていかに充実した日々を送っているかという姿を見せることだと考えています。私自身、日々の生活を楽しみ、生き生きと働く姿を見せられるよう、自戒を込めて明るく職務に励んでまいり所存です。

(ちなみに私の趣味はマラソンで、仕事帰りにはランニングでリフレッシュしています。ストイックすぎて誰も真似したくはならないかもしれませんが、この元気の良さだけでも伝われば嬉しい限りです。)



連携医療機関のご紹介

医療法人 淵野会 淵野病院

所在地	〒870-0307 大分県大分市坂ノ市中央5-1-21
TEL/FAX	097-592-2181
診療科目	精神科
病床数	187床
診療時間	月曜～金曜 9:00～12:30
休診日	土曜日・日曜日・祝日



院長 淵野 由佳

気分変動、不眠、不安等の精神一般外来に加え、認知症（物忘れ）外来に力を入れております。当院では、認知症臨床専門医が診察にあたり、認知症の方も、そのご家族も安心して過ごせるような支援を目指します。また、認知症は発症前の予防が大切です。当院では認知症予防のための検査『軽度認知障害（MCI）スクリーニング検査』『APOE 遺伝子検査（認知症遺伝子検査）』を始めました。いずれも予約制・健康保険適用外・少量の採血が必要です。

少しでも気になることがあれば、お気軽にご相談下さい。



募集

Recruitment

表紙の写真や大分医療センターの
なつかしい写真を募集します。
ぜひ編集委員へご提供ください！

豊水会の日程が決まりました

2026.

11.28^土

会場 トキハ会館

防災訓練

Disaster prevention drill

高橋 宏二



2月18日(水) 16:30~18:30の2時間で、防災訓練を実施いたしました。今回の訓練では、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者受入の実働訓練を行いました。通常診療を行いながらではありましたが、訓練に参加する職員を捻出し、結果、55名を超える多くの職員が参加でき、訓練を通し災害時の動きを確認することができました。患者様および関係者様におかれましては、ご理解ご協力頂き、誠にありがとうございました。

地震と仮定した全館放送からスタートし、災害対策本部の設置、被害状況調査と報告、災害医療を実施するトリアージポストの設置等を実際に行い、導線の確認や、資機材の配置等、詳細なところまで実証でき、課題も多く抽出できました。訓練に引き続き、災害マニュアルおよび、BCP(事業継続計画)の改訂、資機材の改善等に着手しています。

国立病院機構(NHO)は、国民保護法に基づき、指定公共機関に指定されており、災害発生時など国の危険管理に際して、求められる医療を迅速かつ確実に提供する義務があります。また、当院はDMAT指定医療機関にも指定されています。災害発生直後から活動できる、専門的な訓練を受け自己完結性と機動性をもつ医療チームであるDMAT(災害派遣医療チーム: Disaster Medical Assistance Team)を保有し、災害時に派遣する義務があります。当院は、この義務を誇りと考えています。この義務を果たすべく、災害に強い病院を目指し、今回の防災訓練や、NHO医療班、災害支援看護師、DMAT等に取り組み、積極的に災害医療へ貢献したいと考えています。

平時、そして、来ないことを祈りますが、災害が起きてしまった時にも、皆様方から頼られる医療機関を目指して精進してまいります。

人事異動

退職・転出等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考	発令事項	発令日	職名	氏名	備考
医(一)					配置換				
退職	R8. 3. 31	院長	奈須 伸吉		R8. 4. 1	看護師	阿南 瑠莉	熊本医療センター	
退職	R8. 3. 31	外科医長	高橋 純一	飯塚病院	配置換	R8. 4. 1	看護師	吉田 海斗	肥前精神医療センター
退職	R8. 3. 31	外科医師	永島翔一朗	九州大学病院別府病院	配置換	R8. 4. 1	看護師	田代 華子	熊本医療センター
退職	R8. 3. 31	外科医師	渡邊 淳平	南海医療センター	配置換	R8. 4. 1	看護師	高原 真優	姫路医療センター
転任	R8. 3. 31	循環器内科医師	原田 泰輔	岡山医療センター	退職	R8. 3. 31	看護師長	石川奈保美	
退職	R8. 3. 31	泌尿器科医師	村上 幹	大分大学医学部附属病院	退職	R8. 3. 31	看護師	清水 和子	
退職	R8. 3. 31	呼吸器内科医師	石川健太郎	大分大学医学部附属病院	退職	R8. 3. 31	看護師	季松 文乃	
退職	R8. 3. 31	呼吸器内科医師	平川 太星	大分大学医学部附属病院	退職	R8. 3. 31	看護師	波戸 麻耶	
退職	R8. 3. 31	整形外科医師	福井 淳	内田病院	退職	R8. 3. 31	看護師	河崎 芽衣	
退職	R8. 3. 31	消化器内科医師	勝田泰志郎	大分大学医学部附属病院	退職	R8. 3. 31	看護師	堀 友萌香	
退職	R8. 5. 31	消化器内科医師	山田 訓也	やまだ内科・内視鏡クリニック	期間職員				
医(二)					退職	R8. 3. 31	臨床研修医	甲斐聖太郎	大分大学医学部附属病院
配置換	R8. 4. 1	診療放射線技師	宮崎 佳子	小倉医療センター	退職	R8. 3. 31	臨床研修医	鹿嶋 脩策	大分大学医学部附属病院
配置換	R8. 4. 1	臨床検査技師	谷村 怜音	別府医療センター	退職	R8. 3. 31	看護師	白野 倫美	
昇任	R8. 4. 1	栄養士	菊樂 祐太	福岡東医療センター	非常勤				
昇任	R8. 4. 1	運動療法主任	河野 泰之	嬉野医療センター	退職	R8. 3. 25	看護助手	アーリー庸子	
配置換	R8. 4. 1	理学療法士	米倉 大祐	福岡東医療センター	退職	R8. 3. 31	医師事務作業補助者	薬師寺美穂	
配置換	R8. 4. 1	作業療法士	岡本 浩義	福岡東医療センター	退職	R8. 3. 31	看護師	御手洗菊実	
事務職					退職	R8. 3. 31	看護師	大石めぐみ	
昇任	R8. 4. 1	業務班長	入江 遼太	佐賀病院	退職	R8. 3. 31	看護助手	黒木るみ子	
配置換	R8. 4. 1	庶務係長	伊東 敦嗣	九州グループ	退職	R8. 3. 31	事務助手	堀尾 伸枝	
配置換	R8. 4. 1	契約係長	阿部 竜也	福岡病院	退職	R8. 3. 31	臨床検査技師	安部 春花	
医(三)					退職	R8. 3. 31	看護師	岡本紗代子	
配置換	R8. 4. 1	看護部長	黒木 智鶴	嬉野医療センター	退職	R8. 3. 31	事務助手	古長紫希果	
配置換	R8. 4. 1	教育担当師長	今井友紀子	沖縄病院	退職	R8. 4. 30	看護助手	米倉 千晶	
昇任	R8. 4. 1	副看護師長	三重野純子	西別府病院	退職	R8. 4. 30	看護助手	永峯 洋子	
転任	R8. 4. 1	看護師	大川真菜花	神戸医療センター	退職	R8. 5. 31	事務助手	平川こずえ	

採用・転入等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考	発令事項	発令日	職名	氏名	備考
医(一)					採用				
昇任	R8. 4. 1	院長	花島 章	副院長	R8. 4. 1	循環器内科医師	山崎 大央	大分大学医学部附属病院	
昇任	R8. 4. 1	副院長	有川 雅也	統括診療部長	採用	R8. 4. 1	循環器内科医師	高橋 優也	大分県厚生連鶴見病院
昇任	R8. 4. 1	統括診療部長	山下 勉	消化器内科部長・臨床研究部長	採用	R8. 4. 1	泌尿器科医長	鈴木駿太郎	大分大学医学部附属病院
併任	R8. 4. 1	消化器外科部長・HCU室長	渡邊 公紀	消化器外科部長	採用	R8. 4. 1	呼吸器内科医師	澤田 輝	大分大学医学部附属病院
併任	R8. 4. 1	泌尿器科部長・臨床研究部長	住野 泰弘	泌尿器科部長	採用	R8. 4. 1	呼吸器内科医師	鳥島 舞	大分県立病院
昇任	R8. 4. 1	循環器内科部長	田原 功道	循環器内科医長	採用	R8. 4. 1	整形外科医師	森田宗一郎	大分大学医学部附属病院
昇任	R8. 4. 1	循環器内科医長	丸尾啓一郎	循環器内科医師	採用	R8. 4. 1	消化器内科医師	岡 柊吾	アルメイダ病院
配置換	R8. 4. 1	外科部長	井口 友宏	福岡東医療センター	医(二)				
採用	R8. 4. 1	外科医師	緒方 克哉	中津市民病院	配置換	R8. 4. 1	薬剤師	薬師寺 並	別府医療センター
採用	R8. 4. 1	外科医師	小野可穂菜	大分大学医学部附属病院	配置換	R8. 4. 1	診療放射線技師	平川 千夏	九州医療センター
					配置換	R8. 4. 1	診療放射線技師	篠原 侑介	熊本医療センター

発令事項	発令日	職名	氏名	備考
配置換	R8. 4. 1	臨床検査技師	川島 稜平	別府医療センター
配置換	R8. 4. 1	栄養士	児玉みなみ	嬉野医療センター
採用	R8. 4. 1	栄養士	福屋 楓	
昇任	R8. 4. 1	運動療法主任	岩本 誠	南九州病院
配置換	R8. 4. 1	理学療法士	加藤 浩章	福岡病院
採用	R8. 4. 1	理学療法士	古川 直毅	
採用	R8. 4. 1	作業療法士	佐藤 柚季	
医(三)				
配置換	R8. 4. 1	看護部長	大野 美穂	宮崎病院
配置換	R8. 4. 1	看護師長	積山 佳史	熊本再春医療センター
昇任	R8. 4. 1	看護師長	鈴田麻利子	九州医療センター
配置換	R8. 4. 1	看護師	矢野 杏奈	別府医療センター
配置換	R8. 4. 1	看護師	向 久美子	南九州病院
転任	R8. 4. 1	看護師	山岡 美咲	東京医療センター
採用	R8. 4. 1	看護師	岩本 優花	
採用	R8. 4. 1	看護師	高橋 里奈	
採用	R8. 4. 1	看護師	平山 極	
採用	R8. 4. 1	看護師	廣石 沙羅	
採用	R8. 4. 1	看護師	石川奈保美	
採用	R8. 4. 1	看護師	清水 和子	

発令事項	発令日	職名	氏名	備考
事務職				
配置換	R8. 4. 1	業務班長	岡島 武道	南九州病院
配置換	R8. 4. 1	庶務班長	山梨 祥吾	別府医療センター
昇任	R8. 4. 1	経理係長	黒田 幸正	別府医療センター
採用	R8. 4. 1	庶務係	足立 有輝	
非常勤				
採用	R8. 1. 5	外来クラーク	木下 理恵	
採用	R8. 2. 1	事務助手	野中 直哉	
採用	R8. 3. 1	業務技術員	川野 文信	
採用	R8. 3. 9	事務助手	緒方久美子	
採用	R8. 4. 1	シニアドクター	奈須 伸吉	
採用	R8. 4. 1	臨床検査技師	長野 稜生	
採用	R8. 4. 8	看護助手	上田 郁子	
採用	R8. 4.13	看護助手	高倉千鶴子	
採用	R8. 4.13	看護助手	池永 裕子	
採用	R8. 4.20	事務助手	衛藤しのぶ	



基本理念

「愛の心・手」で
病める人々に寄りそう医療

基本方針

- 一 職員はみな共同体の一員。お互いを尊重して思いやる。
- 一 プロ意識を高めて、チーム医療を充実させる。
- 一 地域医療支援病院および紹介受診重点医療機関として365日断らない医療を目指す。
- 一 大分県東部地域の救急・入院診療の中核を担う。
- 一 大分県がん診療連携協力病院としてがん診療を充実させる。
- 一 地域に根差した積極的な広報活動と情報発信を行う。
- 一 安定した医療を提供するため、健全経営を目指す。

大分医療センターのロゴマークについて



全体のコンセプト

Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

「緑と赤」… 昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
「青」…… 大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
「黒」…… 地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。



編集委員

委員長 山下 勉
委員 今村 宏次 坂本 昌則 中島 由美子 梅木 祐 大野 詩織 村上 英恵

外来診察医担当表

【令和8年6月1日現在】

患者のご紹介はこちら / 8:30~17:15

① ☎ **097-593-1112** / 総合支援センター
FAX 097-528-9651

①が繋がらない時・時間外は②へ

② ☎ **097-593-1111** / 病院代表

独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター

■ 受付時間 8:30~11:00

■ 診察開始時間 8:30~

※救急患者についてはこの限りではありません

診療科	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病・代謝・内分泌内科		森田真智子(新患・再来)	嶋崎 貴信(新患・再来) 仲間 寛	嶋崎 貴信 仲間 寛(新患・再来)	嶋崎 貴信(新患・再来) 仲間 寛	嶋崎 貴信 仲間 寛(新患・再来)
腎臓内科				竹野 貴志(予約制)		
膠原病内科				安倍いとみ(予約制)	田村 大輔 (予約制 第1・第2・第4週)	
消化器内科 (肝センター)		木下 竜一 山下 勉 岡本 和久	水内 梨絵 室 豊吉 山下 勉	岡 柊吾 山下 勉 相馬 颯介	相馬 颯介 山下 勉 水内 梨絵	岡本 和久 岡 柊吾 木下 竜一
循環器内科		山崎 大央 丸尾啓一郎 有川 雅也(新患)	有川 雅也 山崎 大央 田原 功道(新患)	田原 功道 高橋 優也 山崎 大央(新患)	田原 功道 丸尾啓一郎 高橋 優也(新患)	有川 雅也 高橋 優也 丸尾啓一郎(新患)
心臓血管外科					河島 毅之 (第2・第4週 10:00~)	
呼吸器内科 (呼吸器センター)		横山 敦(新患) 後藤 昭彦	横山 敦 鳥島 舞(新患)	後藤 昭彦(新患) 澤田 輝	横山 敦 澤田 輝(新患)	横山 敦(新患) 後藤 昭彦
血液内科					諸鹿 柚衣 (受付時間 新患 10:30~11:30(予約制) / 再来 9:00~15:30)	
脳神経内科					日野 天佑 (新患受付 ~14:00) 診療時間 14:00~)	
外科		渡邊 公紀 小野可穂菜	梶島 章 緒方 克哉	井口 友宏 渡邊 公紀	小林 照之 井口 友宏	緒方 克哉 小林 照之
呼吸器外科					高祖 英典(再診予約) (10:00~)	
整形外科		田畑 知法 森田宗一郎	田畑 知法 森田宗一郎	(手術日)	田畑 知法 森田宗一郎	金曜新患受付10時まで 田畑 知法 森田宗一郎
泌尿器科 (完全予約制)	新患	紹介は「外来担当医」宛てでお願いします。 新患受付は10時まで 火・木は再来受付も10時まで				
	再来	住野 泰弘 鈴木駿太郎 奈須 伸吉	住野 泰弘 鈴木駿太郎 村上 幹	住野 泰弘 鈴木駿太郎 奈須 伸吉	住野 泰弘 鈴木駿太郎 山中 直行	住野 泰弘 鈴木駿太郎 奈須 伸吉
婦人科		佐藤 初美	佐藤 初美	梶原 由衣	佐藤 初美 岡本真実子(午後) (受付 13:00~16:00) 診療 13:00~17:00)	梶原 由衣
放射線科 ※第4週のみ火・金		牧角 健司	牧角 健司(午前) 本村 有史(放射線治療 新患午後)	牧角 健司	牧角 健司(午前) 本村 有史(午後)	牧角 健司 (第4週のみあり)
内視鏡 (胃腸センター)		相馬 颯介 水内 梨絵	岡本 和久 木下 竜一 岡 柊吾	岡本 和久 木下 竜一	岡本 和久 岡 柊吾	山下 勉 相馬 颯介
専門診療科の判断が 困難な内科系疾患(午前)		総合診療内科 血液内科	呼吸器内科	循環器内科	血液内科	消化器内科



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構 認定病院

独立行政法人
国立病院機構

大分医療センター

<https://oita.hosp.go.jp>



〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号 TEL097-593-1111 FAX097-593-3106 / 総合支援センター直通 TEL097-593-1112 FAX097-528-9651